

妊娠中の手湿疹治療開始後に長期の乾燥期を経て皮膚状態が整った成人アトピーの経過 (30 歳 女性)

症例 ID：001-30-MY6 | 記録日：2016 年 9 月 20 日

1. 診断・治療前経過

幼少期から全身のかゆみ、頬の赤み、耳切れがあり、小学生期はステロイド外用薬を継続していました。高校受験頃から鼻炎もみられました。

就職後、頻回の手洗いとストレスにより手荒れが悪化し、結婚後も市販の主婦湿疹用ステロイド外用薬が効きにくくなりました。妊娠中に治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	小学生期から皮膚症状にステロイド外用薬を使用し、成人後も市販の主婦湿疹用外用薬を使用しました。
製品名	製品名は不明です。
強度	不明です。
使用期間	小学生期から成人期まで断続的に使用しました。
中止時期	妊娠中の治療開始時です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
幼少期～小学生期	長期経過	全身のかゆみ、頬の赤み、耳切れに対してステロイド外用を続けました。
成人後	手湿疹悪化	頻回の手洗いとストレスで手荒れが強くなりました。
妊娠中	治療開始	漢方入浴と外用処置から開始しました。
治療 3 日頃	症状の強い時期	強いかゆみと黄色い浸出液が出始めました。
約 3 か月間	浸出期	手の浸出液が続きました。
その後約 2 年	乾燥期	手の乾燥とかゆみが続き、手の甲と手首まで広がりました。
治療 3 年目	経過後	本来の皮膚が見えるようになり、かゆみと痛みが軽減しました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始 3 日頃から約 3 か月間、夜も熟睡できないほどのかゆみと手の浸出液が続いた時期です。

5. 困りごと

- ・妊娠中のため治療方法を調整する必要がありました。
- ・手の浸出液と乾燥が長く続き、育児と日常生活の中で処置を継続しました。
- ・指の間から手の甲、手首へ症状が広がりました。

6. 経過のまとめ

治療 3 年目には手に本来の皮膚が見えるようになり、かゆみと痛みが軽減しました。

妊娠・出産・育児を経ながら治療を継続し、手湿疹は安定に向かいました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。